新たな備えサポート隊 in 松山

2022 年度活動報告書

2022 年 11 月

「新たな備えサポート隊 in 松山」実行委員会事務局

目次

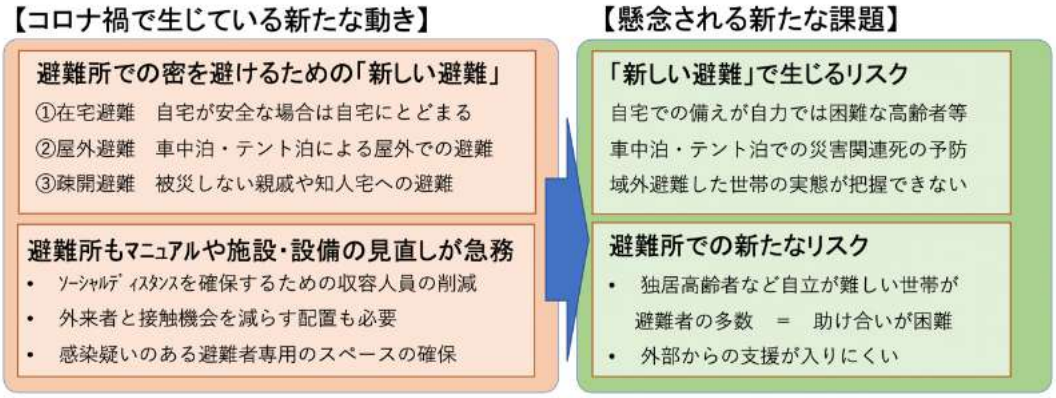
1. 活動の経過 2
1-1 新たな備えサポート隊 2
1-2 新たな備えサポート隊 in 松山 3
2. 新たな備えサポーター養成研修 4
2-1 募集要項 4
2-2 サポーター養成の流れ 5
2-3 動画視聴研修 6
2-4 実技講習会 7
2-5 サポーター養成研修実績 8
3. 新たな備えサポーターの派遣 9
3-1 サポーター派遣の経緯 9
3-2 サポーター派遣の流れ 9
3-3 サポーター派遣実績 10
4. 活動の感想・評価 11
4-1 アンケート集計 11
4-2 活動の感想 12
4-3 活動の評価 14

1. 活動の経過

1-1 新たな備えサポート隊

コロナ禍を経て、避難所での受入や運営ルールが大きく変化し、避難所が中心だったこれまでの支援から、自宅で安心して過ごすための取り組みへ防災の軸を変える必要が生じている。

新たな事態に対応するため、自宅を訪問して「在宅避難」に向けた家具転倒防止や備蓄支援、「屋外避難」や「疎開避難」のための備えの提案を行う「新たな備えサポート隊」を編成し、自力で「新しい避難」ができない高齢世帯等での備えを強化することで、誰もが「新しい備え」への対応が可能になる取り組みを構想した。



新たな災害対応と課題

①「新たな備え」の啓発活動

4つのステップで知る「新たな備え」のためのチェックシートを配布
店頭や防災イベント等で配布・掲出し、新しい避難様式に対応した備えを促す

1.危険予知	2.安全確保	3.備蓄準備	4.備え完了！
自宅で危険な箇所や備蓄の過不足をチェック	転倒防止や食糧の準備等必要なポイントを整理	世帯人数や特性をもとに必要な器具や物資を計算	必要な器具の設置と備蓄の見直しで「新たな備え」を完了

②「新たな備えサポーター」の育成

「新たな備え」を助言し、必要な備品の購入や設置を支援するサポーターを育成
→ オンライン研修（動画視聴・30分）と理解度テストを受験、合格した人向けに店頭や臨時会場で実技講習（60分程度）を実施
→ 修了者を「新たな備えサポーター」に認定、防災イベント等で活躍するほか、「サポート隊」を編成し支援が必要な世帯へ派遣

③サポート隊の派遣

高齢者等支援が必要な世帯を訪問し、「災害発生直後の命を守る」ための備えをサポート
→ サポーター3人ひと組からなる「サポート隊」を編成し、希望する世帯を訪問
→ 訪問時の様子など行政等による災害時の見守りに必要な情報をフィードバック

新たな備えサポート隊の活動内容

1-2 新たな備えサポート隊 in 松山

社会の要請に則した新たな備えの啓発を行い、同時に対象世帯をサポートしていくためのより確実性の高い“ネットワークの構築”と“支援策”を適えるために、産官学民の地域全体で取組むこの事業を、全国でも先駆けて愛媛県松山市で実施することとなった。

ＤＣＭ株式会社が発起人となって、愛媛県松山市で地元企業等を中心とした実行委員会が 2022 年 6 月 27 日に発足し、一般財団法人ダイバーシティ研究所が事務局を担当した。2022 年 7 月 25 日には、愛媛県松山市、愛媛大学防災情報研究センターと事業協定を締結[1]し、産官学民協働による事業として取り組むこととなった。この松山モデルがひとつのプロトタイプとして成立した後、このような取組みが全国で展開されることを期待している。

事業協定調印式（2022 年 7 月 25 日）
左より愛媛大学防災情報研究センター（バンダリ・ネトラ・プラカシュセンター長）、愛媛県松山市（野志克仁松山市長）、実行委員会（発起人:DCM 株式会社 中川真行取締役）

名　称｜ 新たな備えサポート隊 in 松山
目　的｜ ① 災害の多発化やコロナ禍で求められる「新たな備え」の必要性を広める
② 「新たな備え」について知識と技術を持った人材「新たな備えサポート隊」を育成する
③ 高齢者など自力で「新たな備え」が難しい世帯へサポート隊を派遣し、自宅での備えを支援する
日　時｜ 2022 年６月 ～10 月　（うち、サポート隊の派遣は 8 月～9 月）
内　容｜

- 「新たな備え」の考え方や支援が必要な世帯についての基礎知識を学ぶ「オンライン研修プログラム」の提供（7 月初旬から受講開始）
- 高齢者等支援が必要な世帯を訪問し、支援計画の立案・支援の提供を行うための「実技講習プログラム」の提供（7 月下旬に開催）
- 松山市役所等を通して支援希望世帯を広く募り、申し込みのあった世帯から対象とする 100 世帯を訪問して支援計画を策定（8 月を予定）
- 支援計画に沿った支援を提供（8～9 月を予定）
- 支援の提供や訪問時に行ったヒアリング等から、「新たな備え」に向けた課題や今後の取り組みについて提言を発表（10 月を予定）

主　催｜ 新たな備えサポート隊 in 松山実行委員会
＜構成団体＞
株式会社あいテレビ、株式会社伊予銀行、株式会社輝城、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、ソフトバンク株式会社、株式会社ダイキアクシス、一般財団法人ダイバーシティ研究所、ＤＣＭ株式会社、株式会社寺小屋グループ、東京海上日動火災保険株式会社、南海放送株式会社、特定非営利活動法人松山さかのうえ日本語学校（2022 年 7 月 12 日現在・50 音順）

新たな備えサポート隊 in 松山 実施計画・体制

（規約、入退会規程、実行委員会役員名簿は当実行委員会 Web サイト参照 https://sonaetai.net ）

[1] https://www.dcm-hldgs.co.jp/grp/pdf/grp/csr/csr_sonaesapport.pdf

2. 新たな備えサポーター養成研修

2-1 募集要項

「新しい避難」が難しい高齢者等の世帯に対し「在宅避難」に向けた家具転倒防止や備蓄支援の提案を行う「新たな備えサポート隊」として、養成研修を受け「新たな備えサポーター」として認定された者を派遣した。原則として防災士、社会福祉士、大学生を募集対象とし、訪問では各 1 名の計 3 名が訪問することでより効果的な訪問となることを図った。

以下に該当する方を募集します。

1. 「新たな備え」に賛同し、活動に協力してくださる方
2. 以下の有資格者または所属の方（カッコ内は求められる役割）

- 防災士（防災の知識を生かして訪問宅のリスクを評価、必要な備えを助言する）
- 社会福祉士（支援を必要とする世帯の状況を把握し必要なサポートを見極める）
- 大学生（サポート隊での経験を生かして地域防災の担い手となる）

3. 2022 年 8～9 月の期間で愛媛県松山市において活動可能な方（原則として土、日曜が活動日）
4. 所定の研修・講習に参加し修了できる方

サポーターは以下の流れに沿って活動いただきます。

1. サポーター登録お申込み
   ・下記の QR コードから空メール（件名、本文なしのメール）を送付してください（または 直接 matsuyama@sonaetai.net へメール）。
   ・自動返信メールに登録用 Web フォームの URL が記載されていますので入力をお願いします（お名前、住所、連絡先等をお聞きします）。
2. 研修動画視聴
   ・登録が完了するとメールが自動返信され、研修動画視聴サイトの URL をご案内します。
   ・研修動画（合計約 30 分）で活動に関する基本的な事柄を学んでいただき、自己採点によるテストを受けていただきます。
   ・テスト合格後、研修動画視聴サイトの研修完了ボタンを押すと研修が完了します。
3. 講習会受講
   ・対面式による実地講習会（土曜または日曜、1 時間程度、松山市内）を受けていただきます。
   ・動画視聴後、案内メールを事務局から送付させていただきます。
4. 「新たな備えサポート隊」派遣
   ・事務局でマッチングを行い、サポーター3 人が一組になって支援先世帯への訪問を依頼します。
   ・活動日は原則として 8～9 月の土曜、日曜となり、松山市内のお宅を数件訪問いただきます。
   ・基本的に自動車での移動となり、事務局が用意した自動車で派遣サポーターのどなたかの運転により移動します。
5. 訪問（1 回目）
   ・訪問は同じお宅を 2 回訪問します。
   ・1 回目は提供するチェックシートに従って「新たな備え」に関するチェックを行い、防災用品取り付けを検討していただきます。
   ・記録は貸与するタブレット(iPad)に入力いただきます。
6. 訪問（2 回目）
   ・後日、2 回目の訪問を行い防災用品取り付けを行います。
   ・また、社会福祉士のサポーターが中心になって災害時の対応についてのアドバイス等もおこなっていただきます。

新たな備えサポーター募集要項（詳細は https://sonaetai.net/matsuyama/ 参照）

2-2 サポーター養成の流れ

サポーター養成は以下の手順で行われる。

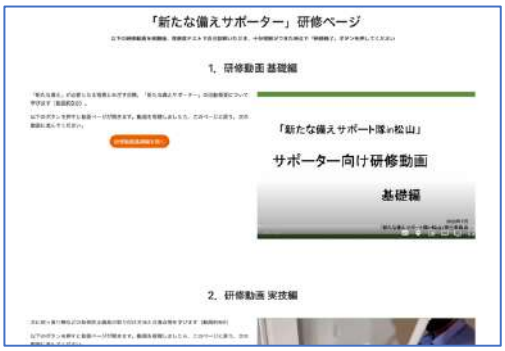
1. サポーター登録希望者は QR コードまたは直接、matsuyama@sonaetai.net へ空メール（件名、本文なしメール）を送る

登録用 QR コード

2. サポーター登録希望者へ自動返信メールでサポーター登録フォームの URL を通知
3. サポーター登録希望者はサポーター登録フォームに入力、kintone（クラウドデータベース）の「サポーターDB」に自動登録される

サポーター登録フォーム

4. 登録後、自動返信メールで動画研修ページが届き、動画による研修を各自行う



動画視聴研修ページ

5. 事務局で実技講習会参加日程を調整後、登録者に通知
6. 実技講習会に参加後、「新たな備えサポート隊」サポーターとして認定

実技講習会

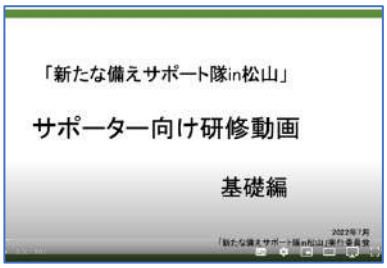
2-3 動画視聴研修

サポーター登録希望者は最初に動画視聴研修を受ける。研修 Web ページ掲載の研修動画（4 本）視聴と自己採点による理解度テストを終了後、同ページにある研修終了のボタンを押すことで「サポーターDB」に動画視聴研修完了が記録される。

「新たな備えサポーター」研修ページ
https://sonaetai.net/matsuyama/tr98304c1.html

視聴する動画は以下の 4 本で当活動に必要な知識･スキルを習得する内容となっている。

1. 研修動画 基礎編
「新たな備え」が必要となる背景とめざす目標、「新たな備えサポーター」の活動概要について学ぶ（約 9 分）。

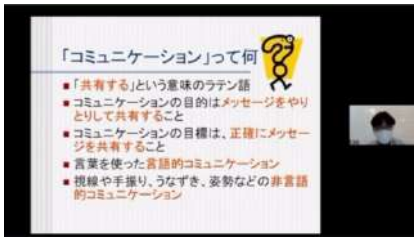


2. 研修動画 実技編
突っ張り棒などの転倒防止器具の取り付け方法と注意点等を学ぶ（約 6 分）。

株式会社輝城
栗田雅則代表取締役 監修・出演

3. 研修動画 コミュニケーション編
訪問先の方と円滑なコミュニケーションをとるための技法と注意点を学ぶ（約 14 分）。

一般社団法人愛媛県社会福祉会
鈴木正幸事務局長 監修・出演



4. 研修動画追加分 訪問編
訪問の流れをつかむために訪問の様子を演じた動画（約 9 分）。

一般社団法人愛媛県社会福祉会
鈴木正幸事務局長 監修・出演

動画視聴後、動画内容の理解度テストとして動画の内容に関連する８問の選択式テストを受ける。自己採点で十分理解ができたと各自が判断後、研修ページの「研修終了」ボタンを押して動画視聴完了を登録する。

理解度テスト画面

2-4 実技講習会

実技講習会は約３時間実施し、事業の概要説明、突っ張り棒等の取り付け講習、アセスメント（生活状況確認）、記録用タブレット使用法、訪問時の応対ロールプレイを行い、実際の訪問で求められる知識・スキルを実践的に学んだ。

所用時間	項　目	内　容	受講対象者	備　考
00:15	事業説明	事業の背景と経緯説明	全員	PPT 使用
00:10	訪問時の留意点	フロー提示	全員	PPT 使用
00:30 1 クール目	アセスメント講習	アセスメント項目の説明	防災士	訪問マニュアル(応対)使用
	実技講習	実測方法と取付講習	社福士	取り付け実技マニュアル使用
	データ入力講習	入力方法講習	学生	アセスメントマニュアル使用
00:05	休憩/移動	—	—	—
00:30 2 クール目	アセスメント講習	アセスメント項目の説明	学生	訪問マニュアル(応対)使用
	実技講習	実測方法と取付講習	防災士	取り付け実技マニュアル使用
	データ入力講習	入力方法講習	社福士	アセスメントマニュアル使用
00;05	休憩/移動	—	—	—
00:30 3 クール目	アセスメント講習	社福士;事業背景を踏まえて説明	社福士	訪問マニュアル(応対)使用
	実技講習	実測方法と取り付け講習	学生	取り付け実技マニュアル使用
	データ入力講習	入力方法講習	防災士	アセスメントマニュアル使用
00:10	意見交換	聴講者間で意見交換	全員	ポストイット使用
00:30	訪問ロール プレイング	小グループ(3 名)にて実施	全員	—
00:10	今後の流れ	予定；連絡方法等含む	全員	訪問マニュアル(概要他)使用
00:05	質疑応答		全員	

開催プログラム（防災士、社会福祉士、学生の３班をつくり３クールで順次実技講習を実施）

会場は「ＤＣＭ株式会社 ゆめ・みらい住まいの創造かん 」（松山市美沢 1-9-1）で行い、設置の取り付け実技デモンストレーション家具等を用いて効果的な講習ができた。

取り付け実技デモンストレーション用家具

突っ張り棒等の防災用品取り付けでは、株式会社輝城 栗田雅則代表取締役指導のもと、以下の講習を実施した。

- 「取り付け実技マニュアル」をもとに、防災用品取り付けの流れと諸注意点を説明
- 転倒防止用具の取り付けを第一優先とし、できない場合は防災用品の提供を行うことを強調
- マニュアルにしたがって、屋内外の点検方法を説明後、転倒防止用具の取り付け講習を実施
- 講師が実際に取り付けを行い、その後、受講者が実技を実施

防災用品取り付け講習

訪問時の応対ロールプレイでは、一般社団法人愛媛県社会福祉会 鈴木正幸事務局長、一般財団法人ダイバーシティ研究所研修・訓練コーディネーター 川崎克寛指導のもと、以下の講習を実施した。

- 「訪問マニュアル」をもとに、支援世帯への訪問手順を３名のサポーターと１名の世帯主（スタッフが演じる）が模擬的に１０分程度で実施
- 到着して挨拶し、転倒防止用具取り付けの検討、屋内外の点検、世帯状況の聞き取り、タブレットへの情報入力を模擬的に行い、取り付け用具の決定と次回訪問日を決めて退去までを行う
- 最初に講師３名で模範的にロールプレイを行った後に、受講者が３人組となり、上記の手順で訪問を体験。終了後に講師や体験者からのコメントおよび全員で気づきを共有して振り返りを行う

訪問時の応対ロールプレイ（左から訪問時挨拶、寸法の測定と撮影、天井の強度確認）

2-5 サポーター養成研修実績

実技講習会を以下の 6 回実施し、合計 46 名を「新たな備えサポート隊」サポーターとして認定した。

講習会受講日	7 月 23 日（土）	7 月 24 日（日）	7 月 30 日（土）	8 月 20 日（土）午前	8 月 20 日（土）午後	8 月 21 日（日）	合計
大学生（防災士資格所有）			1				1
大学生	1	2	7	5	2	7	24
社会福祉士				3			3
防災士	2	3	1	2	4	6	18
合計	3	5	9	10	6	13	46

サポーター認定実績

3. 新たな備えサポーターの派遣

3-1 サポーター派遣の経緯

当初計画では 8 月から 9 月にかけて希望のあった世帯に対してサポーターを派遣する計画であったが、新型コロナウイルス感染増加に伴い「愛媛県 BA.5 医療危機宣言」が 8 月 9 日から 9 月 16 日まで発令されたため、10 月 8 日から 10 月 31 日までに派遣期間を変更した。

また、派遣については希望世帯が利用申込書を事務局に送付して申請し、派遣１回目で防災用品見積、２回目で取り付けの手順を当初想定していた。コロナ禍の影響により十分な広報が行えず、また短時間での訪問が推奨されたため、地域の防災士や民生委員が中心となり、近隣の防災支援が必要な世帯に声をかけて依頼があったところへサポーターが赴き、１回で防災用品を取り付ける手順をとることにした。

項目	当初計画	実際の対応
サポーター派遣時期	2022 年 8 月から 9 月	2022 年 10 月の 7 日間
訪問先選定方法	訪問希望世帯から利用申込書に基づいて派遣	地域の防災士や民生委員で近隣の防災支援が必要な世帯に声をかけて実施
訪問の内容	派遣１回目で防災用品見積、２回目で取り付けの２回訪問	1 回の訪問で防災用品取り付けを実施

サポーター派遣時期・方法の推移

3-2 サポーター派遣の流れ

サポーターの派遣を 10 月 8, 9, 15, 22, 23, 29, 30 日の計 7 日間行った。派遣本部である「ＤＣＭ株式会社 ゆめ・みらい 住まいの創造かん 」へ集合し説明を受けた後、防災用品取り付けに必要な機材等を事務局で用意したレンタカーに積み込んで指定された地域へ向かった。

地域の防災士、民生委員等コーディネーターと合流し、希望があった世帯を訪問して防災用品（主に家具転倒防止の突っ張り棒）取り付けを実施した。防災用品は合計 5,000 円までの範囲で無償提供し、ソフトバンク株式会社から無償貸与を受けた iPad を用いて、訪問世帯や提供した防災用品の情報をクラウドデータベースに記録した。

寸法の測定

突っ張り棒の取り付け

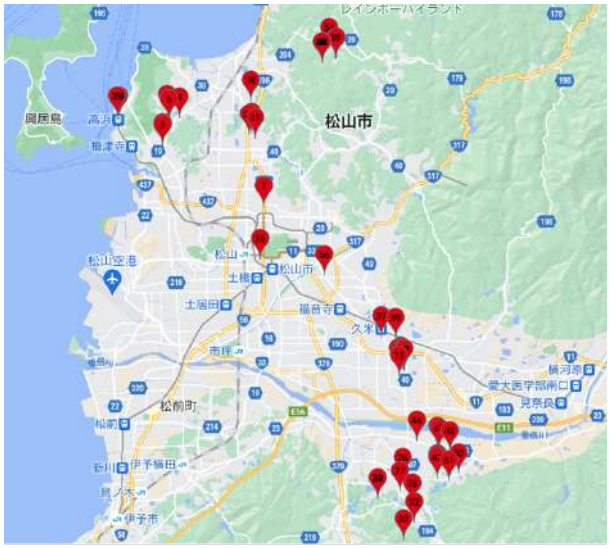
当て板の挿入

設置完成

サポーターによる家具店等防止器具（突っ張り棒）の取り付け

3-3 サポーター派遣実績

2022 年 10 月の 7 日間サポーター派遣を行い、計 56 世帯に防災用品を取り付けた。下図の赤いピンは訪問世帯を示し、松山市内の広い範囲にわたって活動を実施できた。



訪問世帯一覧

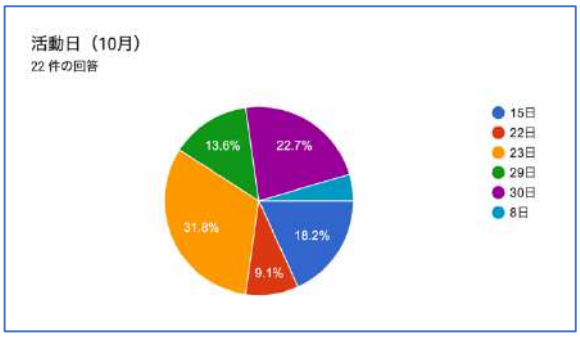
訪問日	訪問世帯	派遣サポーター
10 月 8 日（土）	世帯数：1（素鵞 4）	チーム数：1（社会福祉士 1，防災士 2，学生 1）
10 月 9 日（日）	世帯数：4（東大栗 4）	チーム数：2（社会福祉士 1，防災士 5，学生 2）
10 月 15 日（土）	世帯数：12（東大栗 3、荏原 9）	チーム数：4（社会福祉士 1，防災士 5，学生 6、他 1）
10 月 22 日（土）	世帯数：12（東大栗 3、荏原 9、高浜 3）	チーム数：4（社会福祉士 1、防災士 4、学生 7）
10 月 23 日（日）	世帯数：6（荏原 3、潮見 3、久米 1）	チーム数：3（防災士 5、学生 5、他 2）
10 月 29 日（土）	世帯数：11（東大栗 5、久米 6）	チーム数：4（防災士 3、社会福祉士 1、学生 8）
10 月 30 日（日）	世帯数：10（潮見 3、久米 1、東大栗 5、高浜 1）	チーム数：5（社会福祉士 1、学生 9、他 5）
合計	56 世帯	のべチーム数：23（社会福祉士 6、防災士 24、学生 38、その他 8）

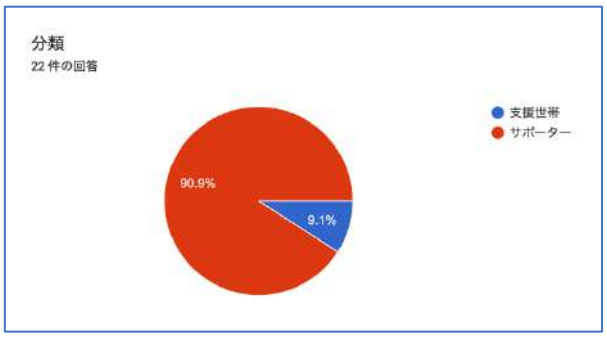
訪問世帯およびサポーター派遣詳細（その他は事務局スタッフ・実行委員会から参加等）

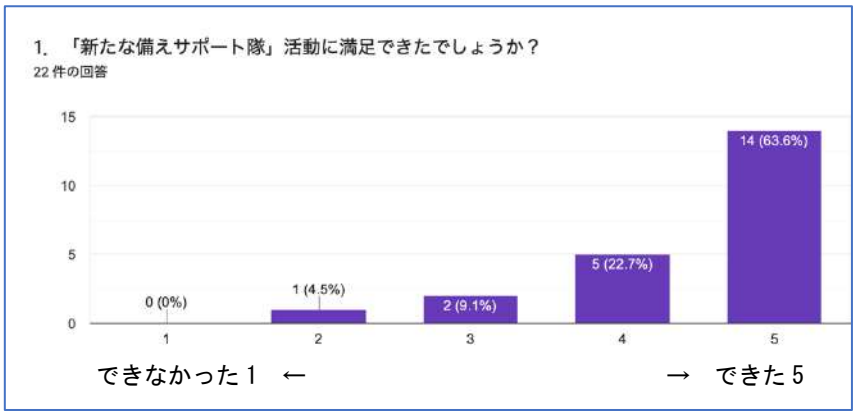
4. 活動の感想・評価

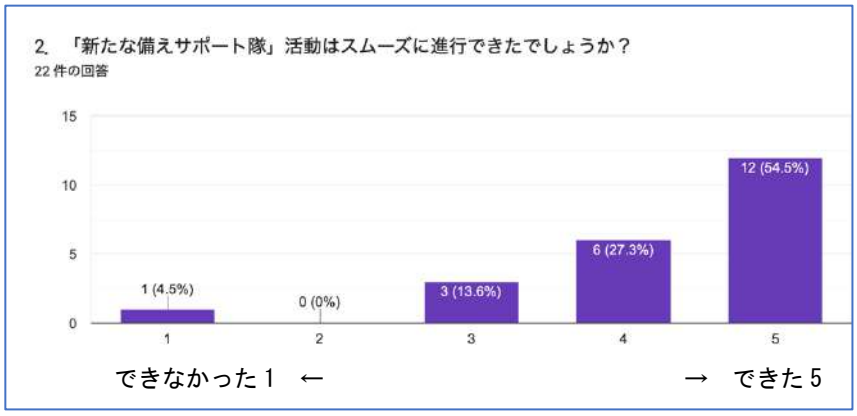
4-1 アンケート集計

サポーターおよび訪問先世帯にアンケートをとり活動の評価を受けた。合計 22 件（サポーター20 件、支援世帯 2 件）の回答があり、以下の集計結果となった。









概ね良好な回答を得ることができた。活動初日の 10 月 8 日に進行面で調整が不十分な点があり、進行に問題ありの回答があったが、以後の活動では改善し良好な回答を得ることができた。

4-2 活動の感想

アンケートの自由記述欄と、事務局スタッフが活動後のサポーターに活動結果を聞き取りした中からサポーターや訪問世帯の活動への感想を抽出して紹介する。

アンケート：活動を通じて良かった点

- 地域の方に感謝されたこと
- 耐震に関するサポートをして地域で暮らす人の防災意識の向上に貢献することができた 地域の人(高齢者)と関わりを持つことで今までにない価値観を知ることができた
- 防災への意識が高まった。
- それぞれの役割を理解し、協力し合うことができた。
- 支援世帯の方々と相談しながら、指定箇所についてはしっかりとストッパーをつけることができた。
- 高齢者世帯の防災グッズの普及の大切さを実感できた。
- 学生が、活発に動いてくれて助かりました。民生委員の方がいてくれて助かりました。

アンケート：活動を通じて悪かった点・改善すべき点

- 地域をよく知る方が１人でもメンバーにはいっているとやりやすい。
- 訪問者に関する正しい情報と派遣者のマッチングができていない。
- 事前に説明があることによって、訪問時にスムーズに進行ができるかなと思った。
- 今後の支援はどうするのか。(支援物資、サポートの面、届かないところなどの支援ができれば今後も出来た方がいいのではないかと思いました！)
- 書類の文字の大きさ
- 次民生委員さんがいない時に活動をどう説明するか(チラシ等)分かりやすい書類があれば良い
- 久米窪田の防災マップの位置が端で見づらい点
- 時間に余裕がありすぎること。
- 道順、可能であれば事前のヒアリングによる対応効率化、
- 金額が余った時にお渡しする防災グッズの種類や量がもっと豊富だったらよかった。だんだん種類が少なくなっていた。
- 昔ながらの大きな鏡やガラスの引き戸付きのたんすなどが多かったので、ガラスの飛び散り防止フィルム等があればよかった。
- 防災グッズ(非常用持ち出し袋など)の場所や中身を一緒に確認する活動が出来たらよかった。

アンケート：その他感想

- 支援した世帯のみなさんに感謝してもらえてとてもうれしかった。山間部の高齢集落の防災対策の難しさを痛感した。
- 全体を通して準備不足に思う。
- みなさんいい方で防災意識が高いように感じました。
- サポーターの皆さんと民生委員さん、伺うお宅の方とも打ち解け、スムーズに作業できました。チームワークも良く、充実した時間を過ごすことができました。今後もこのような活動があれば是非参加させていただきたいと思います！
- このような機会を頂き本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。
- 訪問先の方に喜んで頂きました。
- 高齢者の方とお話させていただくのが楽しくて、山間部の暮らしの様子を観察するのも貴重な良い経験でした。 また来年もぜひよろしくお願いします！

サポーターからの聞き取り：活動方法・内容

- 訪問を１回で終える段取りはとてもよかった（コロナ禍の中、サポーター、支援世帯にも負担が少ない)
- 訪問を１回で終える事により、携行した支援品が不足したが、事務局へ連絡、
- 現場まで持ってきて頂いたので若干時間ロスが発生したが、スムーズに支援する事ができた

- アセスメントを先に行い、社会福祉士さんがいらっしゃることが非常に重要だった
- 入室時に「手の消毒をされていますか？」と聞かれてハッとした
- 5,000 円の限度額では、すべてを網羅できないジレンマを感じた
- 当初の予定は 8～9 月の訪問を計画していたが、10 月に行えたことで気温も落ち着き始め、サポーターの作業軽減、支援世帯の負担も少なくできた
- 地元の方からのご紹介で、順調に進んだ（コミュニティが活性化されていた）
- 2 チーム同士の連携がとれるような状況が必要→事務局用のスマホを活用
- 道具が多いので、レンタカーはミニバンであれば非常に助かる
- 一軒家では、マンションと異なり天井が高いため、脚立が低い
- 当て板を押さえる人、突っ張り棒を取付ける人用のそれぞれの脚立が欲しい
- チームの構成としては、当て板を押さえる人、突っ張り棒をやる人の男性 2 名、アセスメントのため、社会福祉士または女性 1 名が望ましい
- 掃除をする必要があり、予定以上に時間を費やした世帯があった
- 運営、時間、作業面を考慮して、4 チーム×3 世帯訪問＝12 世帯が 1 日の活動としては、限度と思われた
- 精神疾患や認知症を患っている支援先は、事前に情報が必要
- 民生委員の方がいてくださったおかげで、スムーズに入れた（雰囲気としても）
- ビブスのロゴ(協賛企業)を紹介し、「色んな企業が参加されているのですね」と驚かれた
- 女子学生がいることで、女性の高齢者は安心されていた様子だった
- ご紹介いただいた地元の防災士さんが来てくれ、スムーズに作業に入れた
- 本当に楽しく、充実した活動だった。来年もぜひやってほしい！高齢者の方々のおうちに入れて頂き、お話を伺い、防災器具を取り付けること、すべてが自分にとって貴重な経験だった

サポーターからの聞き取り：訪問世帯の声

- 「この事業は次はいつやるの？」、「また申し込みたい」と声があった
- 世帯の方にとても喜んで頂き、サポーターへ参加しやりがいを感じた、楽しかった
- 「危ないと思っていたけど、何をしていいかわからなかった」という声があった
- 「ここまでして頂けるの」と驚き、非常に喜ばれた
- ハザードマップで地域の危険個所の確認を一緒に行い、「非常に参考になった」と喜んでいただいた
- 「安心してここで眠れるわ」と言ってもらえてうれしかった
- 「近くに寄ったらまた来てや」と言われ、お土産も頂いた（干ししいたけ）※基本、お土産はお断りする事としていますが、断り切れなかった様子です
- 「もう少し長生きできるわ」と喜んでいただいた
- 「防災意識はあるけれどできない」という声を聞いて、もっと何かしたいと思った
- 「私たちが 5,000 円払うんじゃないの？無料で？」とびっくりされていた
- 地区全体で防災への意識が高く、近隣住民の交流もたくさん見えた（東大栗町）
- 芸予地震で被害が大きなエリアでもあり、みなさん意識が高かった（久米窪田）
- 地域の方と交流がある方、交流の無い方などいろいろな世帯の方がいることがわかった
- 「心配ではあるが、お金をかけてまでは準備をしたくないと思っていた」と聞いて、今回のようなサポートがあるのはとても有意義だと思った。
- 高齢者の方々は若い人と関わることで、元気が出ている様子だった
- 最後に感極まって泣きそうになっていたおばあちゃんのお顔を見て、自分ももらい泣きしそうになった

4-3 活動の評価

コロナ禍の中、活動に制限が多く出たが、56 件の世帯訪問ができ、概ね高評価を得ることができた。訪問方法等、当初の活動から変更をした内容があるので来年度以降に向けて更に振り返りを行い、より意義のある活動になるよう改善していきたい。活動成果として以下を挙げる。

1. 56 世帯を訪問し防災用品の取り付けや防災情報の提供により、新たな備えの推進ができた
2. 46 名の新たな備えサポーター認定を行い、活動の担い手育成ができた
3. 研修動画、サポーター向けマニュアル、事務局向けマニュアルの作成により、継続的な活動を可能にするツールを完成できた
4. クラウドデータベースでサポーターや訪問世帯を管理するシステムを構築し、効率的な事業運営が可能になった
5. 産官民学の協働に加え、地域の防災リーダー等とも連携ができ、今後の防災や災害時活動の強化につながった

新たな備えサポート隊 in 松山実行委員会 事務局（ＤＣＭ株式会社内）
E-Mail ： sonaesup@diversityjapan.jp

（報告書作成：一般財団法人ダイバーシティ研究所　office@diversityjapan.jp）